



Title	東大阪市における健康危機管理訓練としての、防疫総合訓練への参加から
Author(s)	服部, 泰典
Citation	大阪公衆衛生. 2007, 78, p. 19-20
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/83459
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

東大阪市における健康危機管理訓練 としての、防疫総合訓練への参加から

東大阪市保健所地域健康企画課 服部泰典

1 概要

平成18年9月14日（木）天候にも恵まれ、少し暑さが残る日に、大阪府と府下保健所設置市が合同で「高病原性鳥インフルエンザ・インフルエンザ(H5N1)防疫総合訓練」を行いました。また、東大阪市は、同日この合同訓練に併せて、保健所で机上訓練も行いました。

合同訓練で東大阪市の役割は、堺市に在住の従業員家族2名のうち1名を市立堺病院まで移送する事でしたが、堺市のご厚意で、従業員家族1名と聞き取り調査員2名の役もさせていただきました。他にも、人から採取した検体の搬送から検査にかける訓練に同行したり、鶏の検体採取や、鶏舎の消毒、鶏の処分まで見学できました。



2 合同訓練

訓練当日、患者移送車両を先頭に大阪府立食とみどりの総合技術センターに着くと、まずパワーポイントなどを使ったスライドで説明がありました。その後、訓練場所へ行き、準備を進めていると時間とともに多くの人だかりができてきま

した。府下で健康危機管理に携わる職員の熱気と、真剣な取り組みに、我々もより一層気持ち引き締まる思いでした。



訓練が始まると、頭の中で組立てていたことと、現場で始めて気づく違いや改良すべき点が出てきます。たとえば、移送する患者から聞き取った情報を関係部署に伝える手段の洗練化の必要性です。また、患者役からは、運ばれるときの気持ちの体感や、運ぶ際に注意することについて報告がありました。



人の検体採取と検査については、本市環境衛生検査センターの職員が検体の搬送から大阪府立公衆衛生研究所まで同行し、同研究所で検査の流れについて知見を得るなど、市単独訓練では実施が困難な部分まで訓練ができたことも意義がありました。

3 机上訓練



合同訓練に併せて、東大阪市保健所では机上訓練を計画し、保健所全職員に呼びかけをしました。通常業務もある中、職員の約 200 名のうち、44 名が参加する大規模なものとなりました。

机上訓練は、近隣の市で鳥インフルエンザが発生し、東大阪市在住者が疑似症という設定で、保健所長が流れに沿ってどのような対応を取るか、各職員を指名して質問し、その返答を審議しながら進めます。返答によって状況が変わり、質問も変化します。危機管理に対する習熟度が試されるので、管理職も含め、いつ指名を受けるか緊張感漂う机上訓練は、危機管理に対する認識を新たにする保健所の風物詩となっています。

机上訓練が終わると、防護服の着脱訓練です。防護服は着方も大切ですが、脱ぐ際には汚染を防がなければなりません。着脱作業の上手さは、まさに日頃の訓練量が現れます。



4 まとめ

今回の合同訓練参加は、本市としてとても良い機会でした。府と市では役割に違いもあるし、目的は同じでも手段に違いがあるので、各市の方法も参考になります。特に、府、各市で連携をとるためには、このような訓練はとても有意義です。

また、市で行っている訓練も、年を重ねるごとに職員に浸透しています。万一何事かが起きた場合に、訓練を行っていないければ適切な対応が困難であるということが、訓練をするたびに感じられます。

今回の訓練を風化させないためにも、今後も連携した訓練の必要性を痛感しました。

最後に、本市は、平成 18 年 11 月に天然痘を想定した訓練を実施しました。

